

*平成22年を向かえるにあたり 事務局長 柴田俊一

平成 22 年もあっという間に一ヶ月が過ぎました。時期外れになりつつありますが、本年もどうぞよろしくお願い致します。さて、平成17年(2005)年夏に記念誌の出版を兼ねて「仁雄会創設45周年式典」を行ってから5年が経ちました。ということは本年が「仁雄会創設50周年」の節目の年に当たります。当然式典を行わねばならないところではありますが、一昨年に躰道部の創部50周年式典を行ったばかりである点と、現在躰道部の顧問をお願いしている天笠先生が来年ご退官されるという事情もありますので、現在のところ、記念式典は来年度に先送りしようかと考えております。一方、北大躰道部は学生大会の日に併せて毎年OB会をやっています。私も一昨年にお邪魔したことがあるのですが、これもよい試みと思われ、東京近郊で都合のつく会員を集めて大会当日に同様な会を行おうとも考えております。私自身の機動力の問題もありますが、もし実現した暁にはよろしくご参集のほどお願い致します。

また下記に記すように昨年末以来、躰道関係者の訃報が相次いでおります。「21世紀の武道」として創造された躰道ですが、その21世紀も10年を向かえるにあたえ、時代の変化を強く意識させられます。そのような激動の時代ですが、会員の先生方におかれましては、ますますのご活躍を祈念しております。

*躰道本院二代目宗家ご逝去



日本武藝躰道二代宗家 祝嶺正献(祝嶺和子様、最高師範の奥様)様におかれましては、病氣療養中のところ1月17日午前7時07分にご逝去されました。心からお悔やみ申し上げます。二代目宗家は、躰道の創始者であります祝嶺正献最高師範夫人として、長年躰道の普及と発展に側面から尽力し、初代祝嶺正献最高師範が逝去された後は、躰道の第二代宗家として尽力して頂きました。私自身もしばらくブランクがあった後、練士試験を受けるために伊豆の道場へ赴いたときに暖かく声を掛けていただいた思い出があります。仁雄会からご葬儀に際し生花を送らせていただきました。

なお、後任の第三代宗家には長年宗家代行を務められていた工藤依子様(最高師範の次女)が就任される事が本院最高会議にて決定されました。

二代目宗家祝嶺正献様

*高道元三朗八段範士ご逝去



躰道の中心的指導者として長年ご尽力されてきた高道元三朗八段主席範士におかれましては、去る12月18日午前0時45分にご逝去されました。高道先生は最高師範の高弟として、躰道創設期から活躍され、医科歯科大学躰道部関係の式典にもいつもお越しいただいておりました。つい先日の11月の全日本大会でお顔を拝見したばかりでしたので、急な訃報にはかなり驚かされました。先生のご冥福を心からお祈り致します。なお、なお仁雄会からご葬儀に際し生花を送らせていただきました。

高道八段範士

*谷口興一先生の奥様ご逝去

東京医科歯科大学躰道部（旧空手道部）創始者で、仁雄会会長の谷口興一先生の奥様であられる谷口セツ様が、1月15日午前6時20分にご逝去されました。心からお悔やみ申し上げます。私自身は北海道における所用のため葬儀には出席できませんでしたが、仁雄会から生花を送らせていただきました。奥様のご冥福をこころからお祈り致します。

*大会結果

第43回全国学生躰道優勝大会 平成21年10月10日（土）於東京武道館（綾瀬）

・笠原が女子個人実戦で準優勝の快挙

男子団体法形 4位入賞
女子団体法形 4位入賞
女子個人実戦 笠原里奈 準優勝

講評については戸出主将の報告を転載させていただきます

昨年度準優勝することができた男子団体法形は今年は昨年とほぼ同じメンバーで臨むことができ、さらに上を目指しましたが、結果を残すことができませんでした。女子団体法形は一昨年全日本で3位入賞して以来のメジャー大会予選通過でした。私自身も今年的女子団法は昨年に比べてかなり良い出来であると感じておりましたため、何とかメダルをと思いましたが残念ながらあと一步及びませんでした。個人物では笠原が良く頑張ってくれました。

攻める続けることしかできない単調な実戦が課題でしたが、今回一步引いて相手を良く見ることを意識したことが、このような結果に結びついたように思えます

主将は上述のように述べていますが、男子団体法形は予選通過後、決勝は転技での乱れが出て惜しくもメダルには届きませんでした。健闘と言えるのではないのでしょうか。個人実戦において、男子では過去三人準優勝がいるものの、女子では笠原がはじめての快挙であり、多いに讃えるべきものであるとおもわれます。また女子団体法形も決勝に残ることが出来、本年の活動の充実ぶりを示してくれたものと思われまます。

* 第43回全日本躰道選手権大会 平成21年11月1日（日）、於 Bumb 東京文化館

・男子団体法形久々のメダル獲得

男子団体法形 3位入賞(東京城北チーム)

学生大会に引き続き、男子団体法形が健闘し、今度は決勝での転技もうまく決まり、全日本選手権では久々のメダル獲得と成りました。メンバーの一員でもあった主将の戸出は、これで現役を退くこととなりますが、彼は2年間主将を務めてもらっており、見事に有終の美を飾れたと思います。本当にご苦労様でした。なお監督の宮下、OGの江川らが参画する己錬館チームは千葉県代表として、団体実戦他で活躍しています。詳細は躰道協会ホームページ (<http://www.taido.gr.jp/>) をご参照ください。

*引き続き、平成21年度仁雄会会費納入のお願い

上述のように現役部員は大変奮闘努力し、また結果も残しています。前報でお願いした会費が未納の先生方におかれましては、是非とも納入の方をお願い致します。

会費は医学部、歯学部卒1万円、パラメディカルおよび保健衛生学科卒5千円となっており、前報で同封した振り込み用紙をご利用ください。

加入者名 東京医科歯科大学 仁雄会
口座番号 00130-5- 36708

*平成21年度追い出しコンパ行われる

看護学科の渡邊聡美、三枝真心、技工士専門学校の中西一弘の3名を送る平成21年度の追い出しコンパが例年のように、12月13日(土曜日)に新宿の焼き肉屋で行われました。今回は残念ながら部長の天笠光雄先生は体調不良のため御欠席されましたが、渡辺三雄先生、島田康史先生、また宮下監督、堀内監督補、三枝ヘッドコーチの三役も揃い、楽しく進行して行きました。その後は居酒屋での二次会が行なわれた後、私は失礼致しましたが、カラオケボックスでの3次会で明け方まで楽しい会が続いたようです。三人には躰道部で身につけたこと、学んだことを基にして、卒業後も多めに活躍してほしいと思います。詳細につきましては躰道部のホームページ(<http://tmdutaido.client.jp/>)をご参照ください。

*「熱情
永遠」
拡大鏡—
最高師範
の秘蔵写
真



この写真は八木先生のご提供によるもので、記念誌の表紙を飾ったものと同時期の伊豆の合宿におけ

るもので、記念誌には掲載されなかったものです。写真を通して見るだけでも最高師範の言葉には表せない「威厳」が感じられるすばらしい写真と思われます。当時はもちろん躰道創造以前ですので、「玄制流空手道」最高師範としてのお姿ということになります。私が躰道部に入部した時はすでに躰道発表から10年を経えており、「体位の法形」など一部を除いて、空手道の印象はかなり薄くなっている状況でしたが、練士論文作成のため、最高師範の大著「新空手道教範」に目を通した事があります。この著書に関しては記念誌でも谷口先生が触れられていますが、空手道の術技、鍛錬法等を「体系的」に集大成した格調高い書となっています（術技がすでに旋、運、変、捻、転に分類されている）。少し目を通しただけでも、昭和40年当時の空手界にこの本が与えた衝撃というものを想像する事ができます。

玄制流空手道は躰道創造後も継続しておこなわれていますが、宗家の許可を得た「公認」の団体とそうではない「非公認」の団体が共存しています。本報は訃報の記事ばかり載せてありますが、実は公認の団体である、「国際空手道連盟玄制流成道会」の創始者、会長の成川哲夫師範も本年1月1日に65才の若さで、ご逝去されています。成川師範は特撮テレビ「スペクトルマン」などに主演された元俳優で、1983年に成道会を創立され普及に努めてこられました。毎年一月に行われる躰道と玄制流の合同新年会にもいつもご出席され、最高師範の思い出等を熱く語られていた事を思い出します。成川師範のご冥福を心からお祈り致します。

なおこの写真はメールを通して、配信が可能です。もしご希望の先生がおられましたら、事務局までご一報ください。